

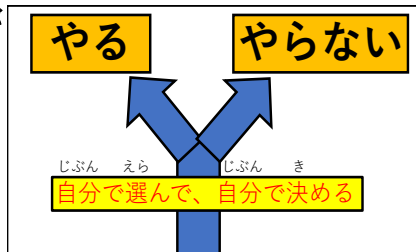


道は二つに一つ ～前期後半開始式から～

8月27日に、前期後半の開始式を行いました。夏休みに入り、各地で悲しい事故や豪雨災害が起きていたので心配していたのですが、大きな事故や病気等もなく、夏休みの思い出を胸に、子どもたちが元気に登校してくれたことが何よりの喜びでした。

前期後半の開始式では、昨年同様に「道は二つに一つ」という話をしました。

私たちは、毎日生活していく中で、いろいろな道を自分で選んでいます。あいさつも、勉強も、物事の取り組み姿勢も、友達に対する行動も、実は分かれ道があって、どちらに進むかは、**自分で選んで、自分で決めて**います。だからこそ大事なのは、**自分を高めるということ、そして、人を大切にするということ**です。子どもたちが、どのように道を選んで、すてきな人へと育っていくか、楽しみにしています。



和氣香風

教え子の思いを受けて、凜として、胸を張って生きる

皆さん、お気づきになりましたでしょうか？この学校便りの題字「和氣香風」がリニューアルしました。加えて、**私の名刺も、新しく生まれ変わりました！**

これは、私の大切な教え子が書道家として大活躍しており、校長として最後の年を、その子が書いてくれた字の名刺を持っていたいと思い、実現したものです。私に名刺と学校便りの題字を書いてプレゼントしてくれました。

彼女は、小さい頃から書道家になるための夢を追い求め、努力を重ねていました。何事も一生懸命に、真っ直ぐに取り組む姿勢があり、私が求めることに期待以上に応えてくる人でした。これまでに、4度も「日本一」に輝いている逸材です。現在は大学生ながら「書道家 村上望華」としてプロ活動を行っており、大企業とのパイプを持ち、数々のオファーを受けたり、一日警察署長を務めたり、今年度は「日中友好平和学生大使」に選ばれ中国を訪ねたりと大活躍中の書道家さんです。将来は、日本だけでなく、全世界で活躍することと信じていますし、願っているところです。

彼女に、「和氣香風」の字に込められた思いと工夫を尋ねたら、「一番は、森田先生の穏やかで上品なイメージの中にも威厳と力強さがある感じを表現したかったので、仮名の筆を用いて繊細ながらも芯のある書を意識しました！！全体の作品構成としては、気の4画目を魅せ場にしたいだったので、強調して縦長く書いています。香の右払い、風の跳ねによって右に偏りがちな重心を、和の2画目のかすれを活かしたしなやかな線で目立たせることで、全体としての均衡を保っています。（中略）

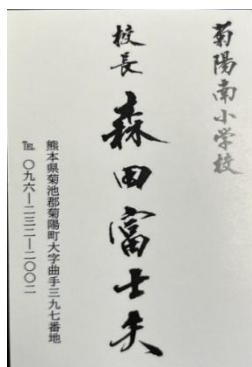
先生への**感謝**と、菊陽南小学校の益々の発展、そして**子どもたちの健やかな成長を願う気持ち**を込めて、**優しく寄り添う**ような書になればいいなと思い書きました。」と返してくれました。

この「感謝」そして「寄り添う」という言葉を選んだところに、彼女の人柄や生き方が表れています。人への感謝の意を表すことができる人間は、愛されていることを自覚でき、人の思いを理解できる懐の深さと謙虚さを持ち合わせており、そのもとには、「運」と「縁」が舞い込んできます。人に寄り添うという意識がある人間こそ、**本当のやさしさを持った温もり溢れる人間**なのです。

彼女の書と言葉は、彼女の人間としての根本を表しており、そこ（名刺や題字）に込められた思いを背に頑張ることができる幸せを心いっぱいを感じているところです。だからこそ、校長として、そして人間として、**凜として胸を張って生きる**ことを改めて心に決めました。

夢を持ち、その実現に向けて一生懸命に生きて、誠実に、謙虚に、人と繋がって幸せに生きていく、そんな力をこの南小の子どもたちに育んでいきたいという志を強く持ち続けています。

名刺表面



名刺裏面

